

平成29年度行政評価シート【個表】

平成 29 年 6 月 28 日

評価対象事業		評価者		ごみ減量対策課担当課長 内海 春信	
環境-05	重点事業	ごみ収集事業	☒ 自治事務	主管課	ごみ減量対策課
			☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	生活環境	施策の方針	3Rの推進・ごみの適正処理	

1 事業の目的

対象	市民等
意図	一般廃棄物の適正な処理のため。
効果	生活環境の保全及び公衆衛生の安定が図られる。

2 平成28年度に実施した事業の概要

・資源物やごみについて収集・運搬を民間委託により実施した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	27年度決算	28年度決算	データ区分	29年度当初予算	備 考
人口等のデータ	人 口	177,243人	人 口	176,466人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世 帯 数	80,676世帯	世 帯 数	81,150世帯	
	事業の対象者数		事業の対象者数		
運営資源状況	決算値(千円)	639,294	当初予算(千円)	670,798	
	国県支出金		国県支出金		
	地方債		地方債		
	その他	122,238	その他	82,120	
	一般財源	517,056	一般財源	588,678	
	人員配置数	3.0	人員配置数	3.0	
事業経費運営	人件費(千円)	23,763	人件費(千円)	23,389	
	総事業費(千円)	663,057	総事業費(千円)	694,187	
	市民1人当りの経費(円)	3,741	市民1人当りの経費(円)	3,934	
	対象者1人当りの経費(円)		対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有 効 性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○-2. 適正な受益者負担を導入している
		○-2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○. 協働実施済
		協働実施済の場合のパートナー 自治・町内会
事業内容の方向性	☐ a: 事業内容を見直す ☒ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	見直しの種類 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他
		見直しの内容 事業へ統合
予算規模の方向性	☒ A: 予算規模を拡大する ☐ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 退職者不補充により、直営で収集しているごみ等を民間に委託する必要があるため、予算規模は拡大していく。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	クリーンセンターの技能労務職の退職に際して、新規職員を採用するという方向性が現状ではない。毎年度退職による減員対応として、収集業務を民間に委託しているため、新規採用が復活するまで当事業は拡大する必要があると考えている。	

平成28年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	なし。	
課題解決のために行った平成28年度の取組	なし。	☒ 解決 ☐ 一部解決 ☐ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	減員対応による委託費用の増額への対応。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	1人当たりのごみ排出量(平成27年度 ※国報告数値)								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	982g	897g	810g	901g	1001g	910g	986g	921g	977g

比較事項	リサイクル率(平成27年度 ※国報告数値)								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	48.4%	29.6%	21.8%	24.9%	23.9%	32.7%	43.8%	43.0%	42.4%

比較事項									
団体名									
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	人口1人当たりのごみ排出量は県内では6番目に多くなっているが、リサイクル率は高く、48.4%は県内トップである。引き続きごみの発生抑制を推進し、排出量の削減を図りたい。
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	ごみの焼却量の削減					単位	トン	指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		達成率は目標値/実績値とした。
平成26年度末に今泉クリーンセンターが焼却を停止したため、焼却量の削減は安定的で着実なごみ処理体制の構築に必要である。	目標値	30,721.0	29,923.0	32,273.0	31,208.0					
	実績値	37,284.0	34,882.0	36,383.6						
	達成率	121.4%	116.6%	112.7%						

指標の内容	リサイクル率の向上					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		達成率は目標値/実績値とした。
リサイクルをすすめることで循環型社会を構築し、焼却量の削減を図るため。	目標値	50.0	50.0	50.3	50.6					
	実績値	48.2	48.4	47.2						
	達成率	96.4%	96.8%	93.8%						

指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	平成27年3月に今泉クリーンセンターが稼働を停止し、焼却許容量が減少したため、ごみの減量・資源化施策を推進し、焼却量を削減していく必要がある。リサイクル率は、人口10万人以上の全国の市町村でトップレベルの高い数値を維持しており、引き続き高いリサイクル率を目指す。
-----------------------	---